

本件連絡先

泉南市教育委員会 文化振興課 公民館係

担当:小西・水田

TEL:072-483-4361

Mai:itarui-k@city.sennan.lg.jp

令和3年6月30日

泉南市報道提供資料
報道機関 各位

泉南市秘書広報課長 古木 孝彦

新型コロナウイルス感染拡大防止と家庭内での創作活動を！

「妖怪アマビエ作品大募集」について

泉南市では、令和2年8月から、新型コロナウイルス感染拡大防止の取組の1つとして、疫病退散で知られる日本の妖怪「アマビエ」の姿を模した作品の募集を行って参りました。現在、応募いただいた作品は、本市ウェブサイトと泉南市立樽井公民館で展示を行っています。

令和3年6月から作品募集を再開しています。不要不急の外出を控えることで増加した家庭内の時間を創作活動に使い、その作品をみんなで共有できるよう、オンライン展示会でも発表します。

記

【概要】妖怪アマビエ作品募集と展示会の開催

【募集期間】当面の間

【展示場所】・泉南市ウェブサイト（「泉南アマビエ」で検索）

・泉南市立樽井公民館（泉南市樽井6-11-16）

※緊急事態宣言期間中は、臨時休館となります。

【詳細】別紙、募集要項をご覧ください。

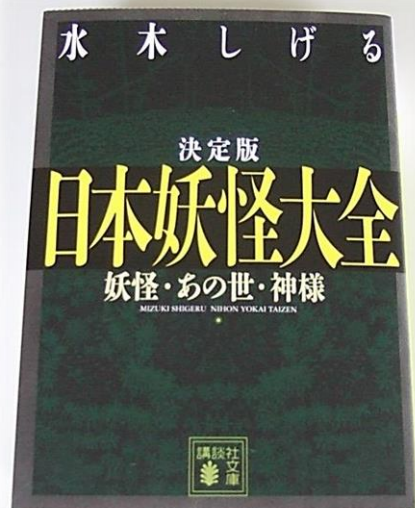
【目的】創作作品をオンライン展示会により、多くの方々と共有します

【主催】泉南市教育委員会 文化振興課 公民館係

ほかにも、有名な漫画家「水木しげる」さんは、妖怪図鑑への収録のためアマビエを描いています。(下図参照)

水面から半身を出した姿で描かれており、アマビエに腕を描き込んでいるのが特徴です。

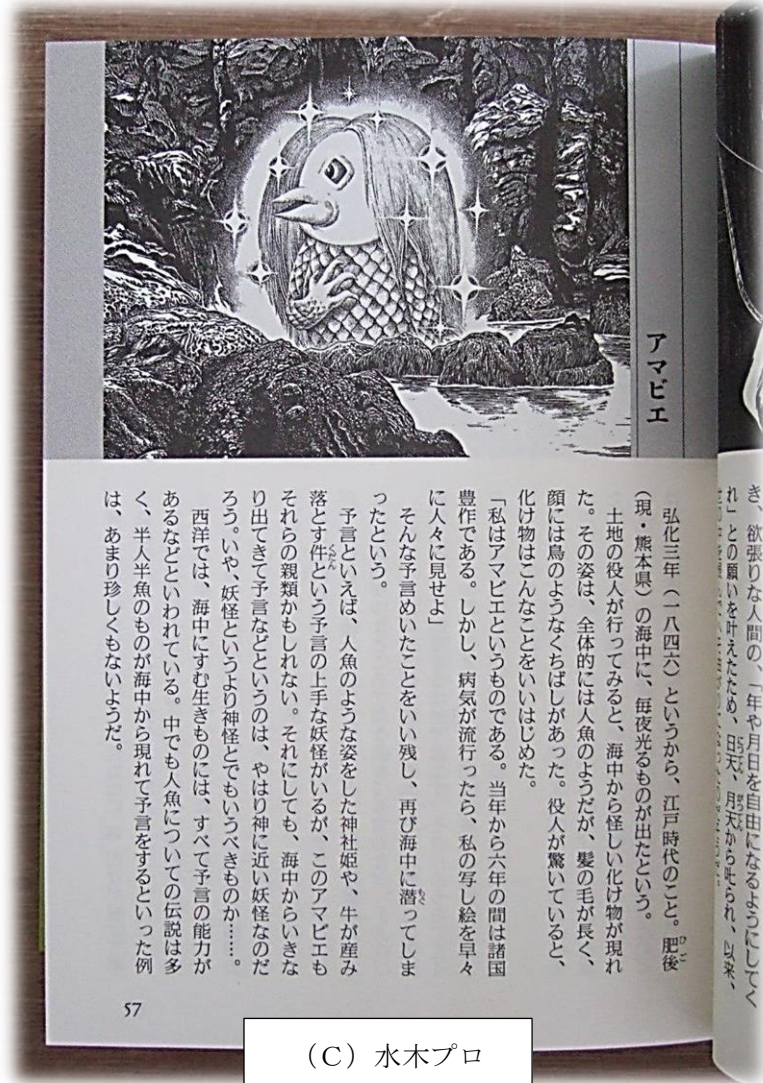
水木しげるさんは、西洋では海の生物にはすべて予知能力があり、海から人魚が予言を告げる伝承も珍しくないことから、アマビエを西洋の人魚に近いものであろうという解釈を著書で述べています。しかし、西洋の人魚の予言の多くは不運の前兆のみであるいっぽう、アマビエは予言のみならず疫病を治すことについても言及している点が、大きく異なることも述べています。



【出版社名】講談社
【書籍名】『決定版 日本妖怪大全 妖怪・あの世・神様』

今こそ、伝説の妖怪「アマビエ」「あまびこ」の作品を作り、公民館で展示してみませんか。

多くの人に、彼らの姿を見てもらい、伝説にあやかってみたくと思います。また、1つのテーマを基に、みんなで絵や造形作品などを作ることで、感染予防の機運を高め、各自の創造性を高めていきたいと思っています。



(C) 水木プロ



☆みなさまのご応募をお待ちしております☆

募集期間延長



疫病退散☆伝説の防疫妖怪☆ アマビエ作品募集要項

日本に伝わる妖怪「アマビエ」(アマビコ)をご存知ですか？

半魚人のような姿で、海中から光を放って現われ、豊作や疫病対策などの予言をしたとされる伝説の妖怪です。

令和2年から厚生労働省が「アマビエをモチーフにした啓発アイコン」を作成し↓、感染拡大防止を呼びかけています。



引用元 P 2 参照

同年8月から泉南市立公民館では、アマビエをモチーフにした様々な作品を募集してきました。現在、樽井公民館と本市ウェブサイトにて展示会を開催しています。

下記内容で募集延長を行いますので、みなさまのご応募をお待ちしております。

- 【内容】陶芸、粘土細工類、衣類(Tシャツ・セーター・刺繍・かぶりもの)、絵(水墨画・油絵・水彩画・イラスト・マンガ)ステッカー・アイコン・バナーなど、いろいろと募集します。
- 【場所】泉南市立樽井公民館 1階フロア、本市ウェブサイト
- 【展示期間】基本、各作品を受付後、終了するまで。
- 【対象】応募作品を樽井公民館まで搬入・搬出できる方。
- 【申込み】指定応募用紙にご記入の上、作品に添えて申し込んでください。教育委員会、市内4公民館、図書館で募集要項、応募用紙を配布しています。また、本市ウェブサイト公民館ページからもダウンロード可能です。

泉南アマビエ

検索

みなさまのご応募をお待ちしております☆



【申込期限】当面の間、作品を受付いたします♪(随時受付)

【応募先・お問い合わせ】泉南市文化振興課(樽井公民館)
〒590-0521 泉南市樽井 6-11-16 (電話) 072-483-4361
(FAX) 072-483-4380 (E-mail) tarui-k@city.sennan.lg.jp

月曜午後、火曜日、祝日は休館日

Ver. 2021_0520

アマビエについて、インターネットで調べると、次のようなことが分かりました。

アマビエは、日本の妖怪の1つ。
江戸時代、後期の刷り物（下図）に、絵と文とが記されている。



肥後国海中の怪（アマビエの図）京都大学附属図書館所蔵から引用。

肥後国（熊本県）で、夜になると海に光るものが現れた。
土地の役人がおもむいたところ、アマビエと名乗るものが出現し、役人に対して次のような話をした。

「当年より6ヶ年の間は諸国で豊作がつづく。しかし同時に疫病が流行するから、**私の姿を描き写した絵を人々に早々に見せよ。**」
と予言めいたことを告げ、海の中へと帰って行った。

また、このアマビエのルーツと推定される「あまびこ」と呼ばれる妖怪もいるようだ。
年代が特定できる最古の例は、天保15年（1844年）の越後国（新潟県）に出現した「海彦（あまびこ）」である。頭部から3本の足が生えたような（胴体のない）獣のような絵が描かれている。（右上図参照）

「あまびこ」は「**今年（天保15年）に日本の7割の人々が死ぬが、我が形を見た者は死から逃れることができる**」と語ったとされる。

「あまびこ」も、「アマビエ」も、日本における疫病封じの妖怪である。

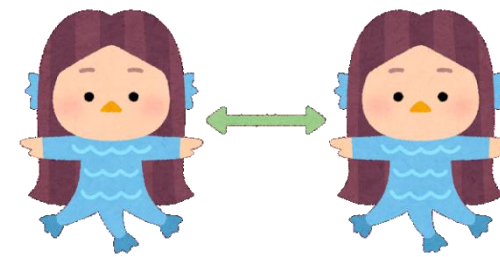
（引用元）「アマビエ」フリー百科事典 ウィキペディア日本語版 (<http://ja.wikipedia.org/>)。
2020年6月12日15時（日本時間）から引用。文章の引用は、文体を編集しています。

「あまびこ」と称される妖怪については、江戸時代後期の天保（1831年）から明治中期にかけて、資料や新聞記事などで確認されています。

共通した特徴としては、

- ・いずれも海中からの出現・豊作や疫病の予言
- ・その姿を写した絵による除災
- ・3本以上の脚部をもつ絵姿
- ・「しばた（柴田・芝田）」という姓の目撃者がいるなどの共通要素があります。

また、アマビエを、「あまびこ」と同種のもの、名称の誤記例であるとする説もあります。



民俗学者「湯本豪一」所蔵のあまびこの肉筆画 ウィキペディアから引用

「あまびこ」の出現場所は、肥後国（現・熊本県）の海に出現したとする資料が最も多く、アマビエが肥後国に出たとする話も、この影響下にあると考えられます。

「あまびこ」の絵は、どの例でも大抵奇妙な姿で描かれています。アマビエの絵にくらべると猿に似た、毛の生えた獣のようなかたちで描かれています。またアマビエの文には採用されていませんが、肥後国に出た「あまびこ」には「猿の声して人を呼ぶ」など、猿のような声をしていたという点が登場します。



※本書では、「あまびこ」を分かりやすくするため「ひらがな表記」にしています。

アマビエ 検索 ★ あまびこ 検索